

第5次茅野市総合計画 将来展望人口について

1. はじめに

第5次茅野市総合計画の策定にあたり、茅野市の人口の将来推計は、これからのまちづくりを考えるための重要な事項です。

平成27年度に策定した「茅野市人口ビジョン」による将来展望人口は、平成22年国勢調査を基準に推計したものであるため、平成27年国勢調査など新たに得られた統計情報等に基づき推計の前提となる各種条件を設定し、将来推計人口の推計を行い、第5次茅野市総合計画における将来展望人口を設定します。

2. 推計パターン

将来展望人口の設定に当たり、以下の2パターンの推計を行いました。

① 現状推計人口

国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」といいます。）の推計方法を基本に、出生率、純移動率が現状のまま推移すると仮定した推計人口

② 将来展望人口

出生率の向上や転入者の増加など、様々な人口減少対策の効果を見込んだ推計人口

また、図表1では、上記①、②それぞれの比較対象になると考えられる、平成27年度「茅野市人口ビジョン」にて行った人口推計結果（以下、「前回推計」とします）の各推計パターンについても、整理します。

※人口フレーム

市民プラン（第4次茅野市総合計画）では、まちづくりを行う前提条件として、人口フレーム（平成29年度で58,000人）を設定していました。人口フレームとは、「茅野市の人口を何人にするか」という目標や「茅野市の人口は何人くらいになる」という推計ではなく、社会基盤整備といった茅野市のまちづくりを進めるための前提条件として設定した人口のことをいいます。（推計した人口をもとに、交流人口等を踏まえ、ある程度人口を上乗せしています。）

※ 出生率の仮定値として「子ども女性比」を用いた理由（次ページの図表1）

- 「子ども女性比」とは、0-4歳人口と15-49歳女性人口の比であり、出生率の代替指標として用いられる指標のことです。
- 「国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』平成25年3月推計」に示された考え方をふまえ、市区町村別の年齢別出生数は年による変動が大きいこと等に基づき、出生率の代わりに「子ども女性比」を用いて推計を行いました。

図表 1 推計パターンとその設定条件

推計パターン名		設定条件	
今回推計	①現状推計人口	基準人口	・平成 27 年国勢調査結果(総務省統計局)
		出生率	・「子ども女性比」を用いて推計 ・平成 27(2015)年の「全国の子ども女性比」と「茅野市の子ども女性比」との格差(比)が将来にわたり一定として、茅野市の「子ども女性比」を設定 ・なお、将来にわたる「全国の子ども女性比」は、社人研「日本の将来推計人口(平成 29 年推計)」に基づく
		純移動率	・H22(2010)→H27(2015)年の純移動率を算出し、これが将来にわたり社人研推計(日本の地域別将来推計人口(平成 25 年 3 月推計))の純移動率の動きに合うように、「→2015 年」に対する各年の比率をそれぞれ乗じることで算定 ・「→2040 年」以降は、H52(2040)年の数値と同水準で推移すると仮定
※(比較)前回推計	社人研ベース推計 ※社人研による茅野市の推計(日本の地域別将来推計人口(平成 25 年 3 月推計))に準じた推計	基準人口	・平成 22 年国勢調査結果(総務省統計局)
		出生率	・「子ども女性比」を用いて推計 ・平成 22(2010)年の「全国の子ども女性比」と「茅野市の子ども女性比」との格差(比)が将来にわたり一定として、茅野市の「子ども女性比」を設定 ※社人研の推計(日本の地域別将来推計人口(平成 25 年 3 月推計))はH52(2040)年までであり、以降はH72(2060)年まで同程度で推移すると仮定
		純移動率	・H17(2005)→H22(2010)年の純移動率を基準とし、これが H27(2015)年→H32(2020)年にかけて定率で縮小、H32(2020)年以降は縮小された値が一定で推移 ※社人研の推計(日本の地域別将来推計人口(平成 25 年 3 月推計))はH52(2040)年までであり、以降はH72(2060)年まで同程度で推移すると仮定

推計パターン名		仮定値の設定条件	
今回推計	②将来展望人口	基準人口	・平成 27 年国勢調査結果(総務省統計局)
		出生率	・「子ども女性比」を用いて推計 ・平成 27(2015)年の「子ども女性比」が、H72(2060)年にかけて、合計特殊出生率 2.07(人口置換水準 ¹)を子ども女性比に換算した値に上昇すると仮定。 ・なお、換算値は社人研「日本の将来推計人口(平成 29 年推計)」の「合計特殊出生率」と「子ども女性比」の比率を用いた
		純移動率	・H22(2010)年→H27(2015)年の純移動率を算出。プラスの年齢階級は今後も同水準を維持し、マイナスの年齢階級は H47(2035)年の均衡に向けて縮小したのち H47(2035)年以降は純移動率が 0 となると仮定
※(比較)前回推計	本市独自推計	基準人口	・平成 22 年国勢調査結果(総務省統計局)
		出生率	・平成 32(2020)年まで、合計特殊出生率 1.64(人口動態保健所・市町村別統計による茅野市のベース推定値)を維持、以降H72(2060)年にかけて人口置換水準である 2.07 に向けて上昇
		純移動率	・H22(2010)年→H26(2014)年の純移動率を算出し、これがH47(2035)年の均衡に向けて縮小したのち、H47(2035)年以降は純移動率が 0 となると仮定

¹ 人口置換水準: 人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率のこと

3. 推計結果

(1) 今回推計「①現状推計人口」と前回推計「社人研ベース推計」(H27 人口ビジョン)の比較

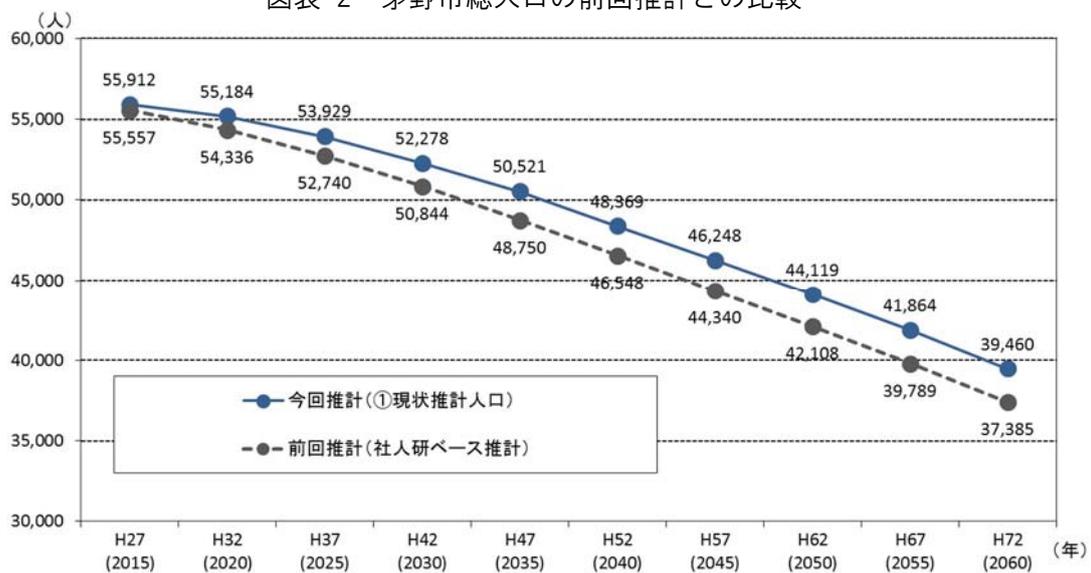
【ポイント】

- 総人口は前回推計を上回ると推計され、人口減少の速度は緩和すると見込まれる。
- 一方で、老年人口の割合は高まるものと予想される。

ア. 総人口は前回推計を上回る

今回推計した「①現状推計人口」の茅野市総人口は、前回推計（社人研ベース推計）を上回って推移すると推計され（図表 2）、H52（2040）年には 48,369 人、H72（2060）年には 39,460 人と見込まれます。

図表 2 茅野市総人口の前回推計との比較

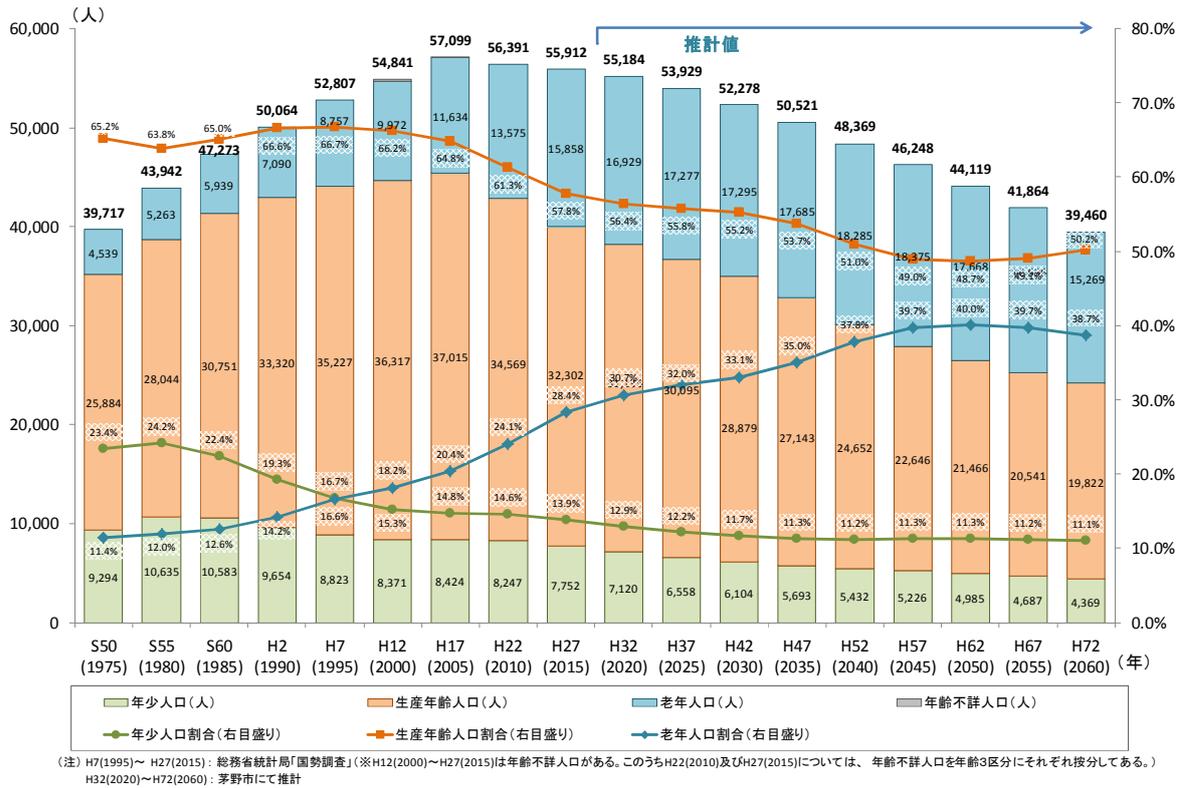


この理由として、出生率については、平成 27 年の「子ども女性比」は前回推計と比べ低下しているものの、将来にわたっては「全国の子どもの女性比」の見通しに基づき、前回推計よりも高い水準になっているためと考えられます。さらに、推計の基準とした同年の茅野市人口（平成 27 年国勢調査）が前回推計結果よりも多いこと、また純移動率は全体で見るとわずかながら流入超過にあることも背景として考えられます。

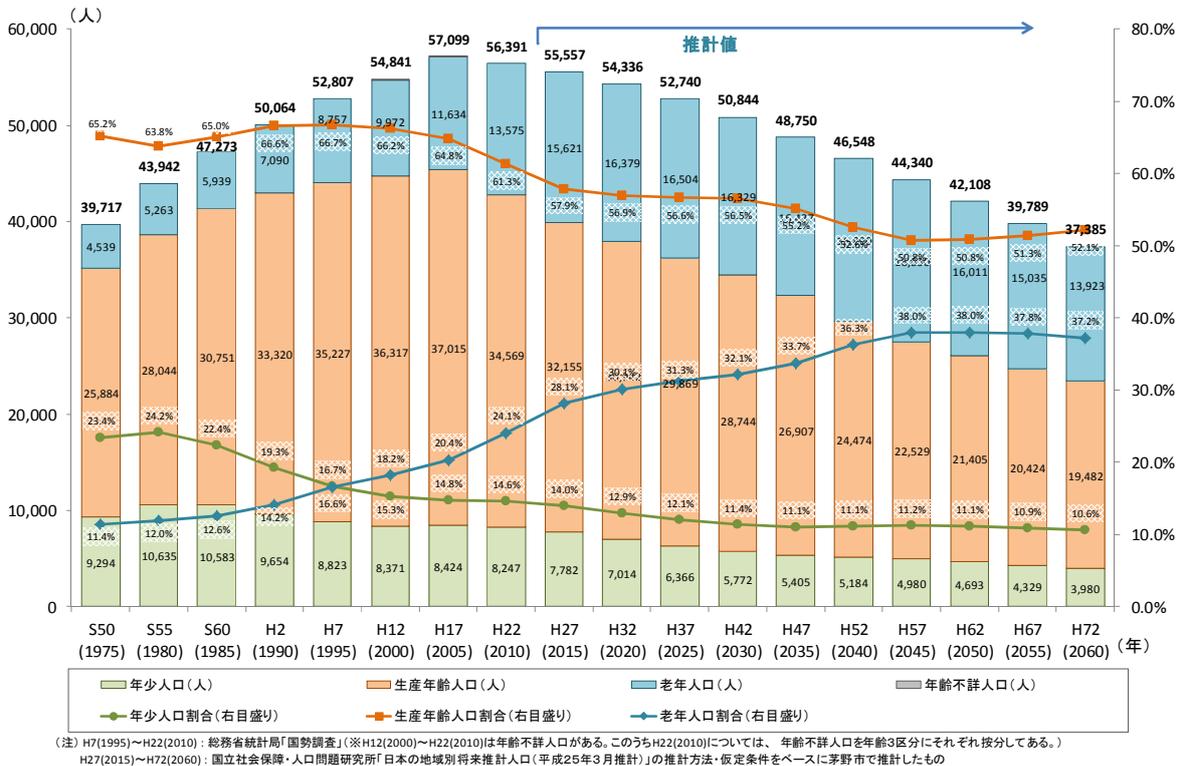
イ. 老年人口の割合は高まるものと予想

一方で、年齢構成をみると、前回推計よりも老年人口の割合は高まっています（図表 3 と図表 4 の老年人口割合の比較）。生命表の定常人口等に基づき算出した理論上の数値であることに注意が必要ですが、「純移動率」は、他の年齢階級に対し相対的に老年人口の転入が見込まれる構成となっています。

図表 3 今回推計「①現状推計人口」



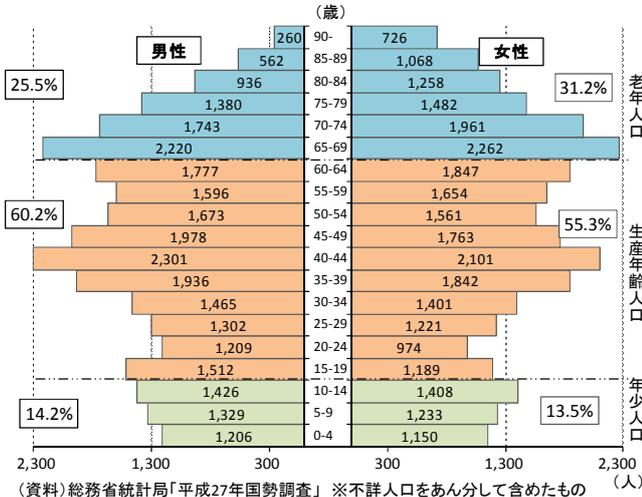
図表 4 前回推計「社人研ベース推計」



図表 5 人口ピラミッドによる比較

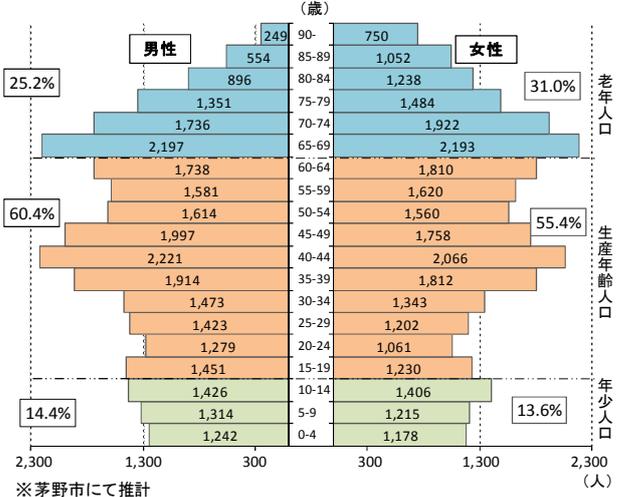
今回推計「①現状推計人口」

【平成 27(2015)年 実績値】

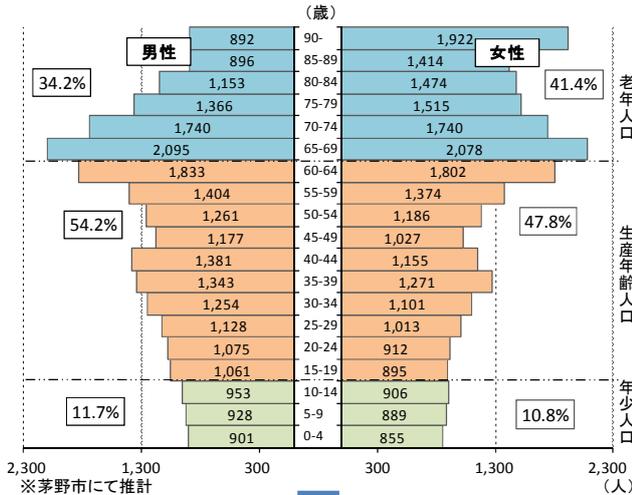


前回推計「社人研ベース推計」

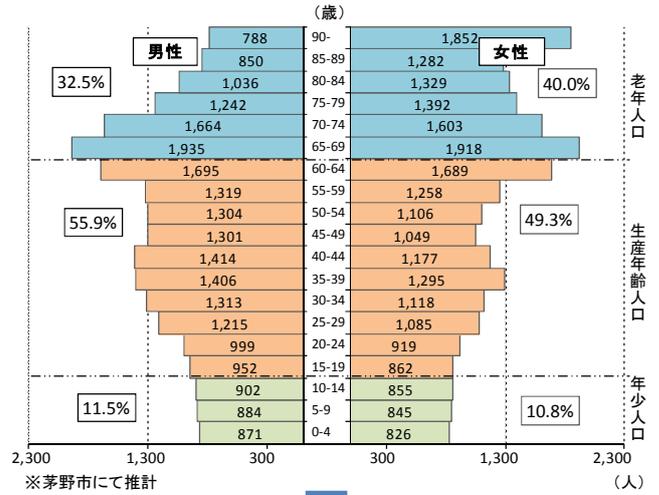
【平成 27(2015)年 推計値】



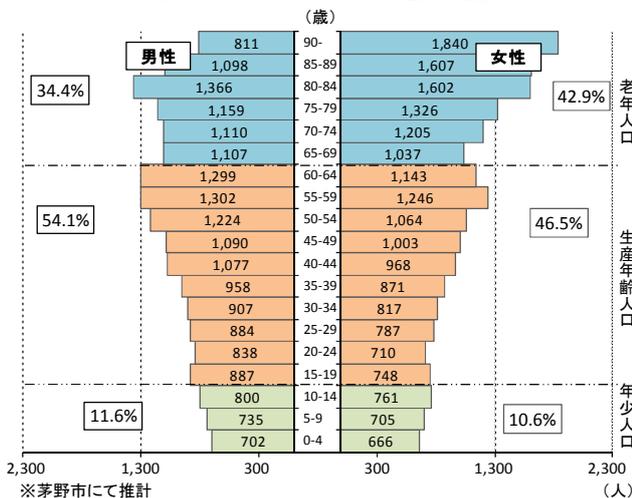
【平成 52(2040)年 推計値】



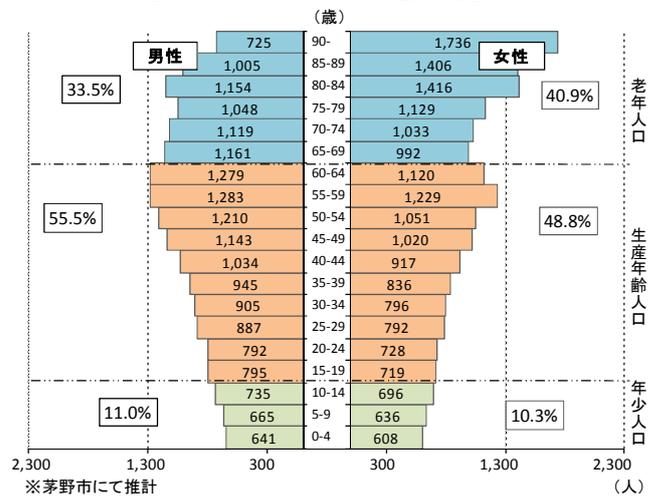
【平成 52(2040)年 推計値】



【平成 72(2060)年 推計値】



【平成 72(2060)年 推計値】



(2) 今回推計「②将来展望人口」と前回推計「本市独自推計」(H27 人口ビジョン)の比較

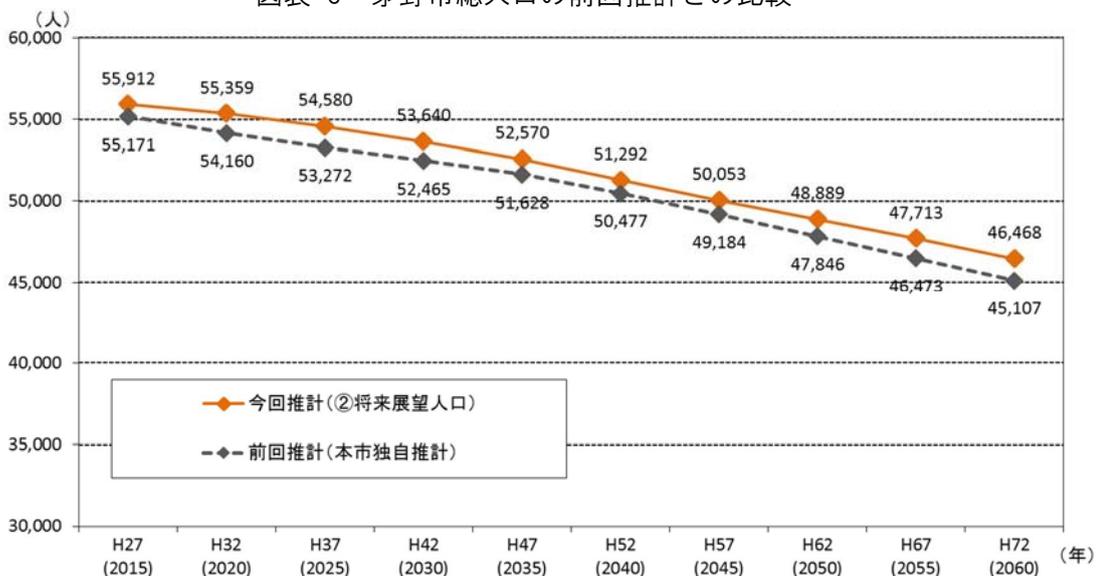
【ポイント】

- 平成 72(2060)年に向けて、出生率を人口置換水準まで高めていくとともに、転入超過の傾向を堅持し、また転出を抑制していくことで、前回推計を上回る将来人口展望を設定。
- 一方で、老年人口の割合は高まるものと予想される。

ア. 今回推計「②将来展望人口」の総人口は、前回推計「本市独自推計」を上回って推移

今回推計した「②将来展望人口」の茅野市総人口は、前回推計（本市独自推計）を上回って推移すると推計され（図表 6）、H52（2040）年には 51,292 人、H72（2060）年には 46,468 人と見込まれます。

図表 6 茅野市総人口の前回推計との比較



「②将来展望人口」は、出生率は前回推計と同様に、平成 72（2060）年に向けて人口置換水準まで高めていくものとし（計算上は子ども女性比を活用）、純移動率については、足下でプラスになっている年齢階級は現状を保持しつつ、一方マイナスの年齢階級は流出を抑えていくとの観点に基づき、条件の設定を行ったものです。

従って、今後、出生率を人口置換水準まで高めていくとともに、転入超過の傾向を堅持し、また転出を抑制していくことで、「茅野市地域創生総合戦略（平成 27 年）」で掲げた将来人口展望（図表 7）を達成できるものと考えられます。

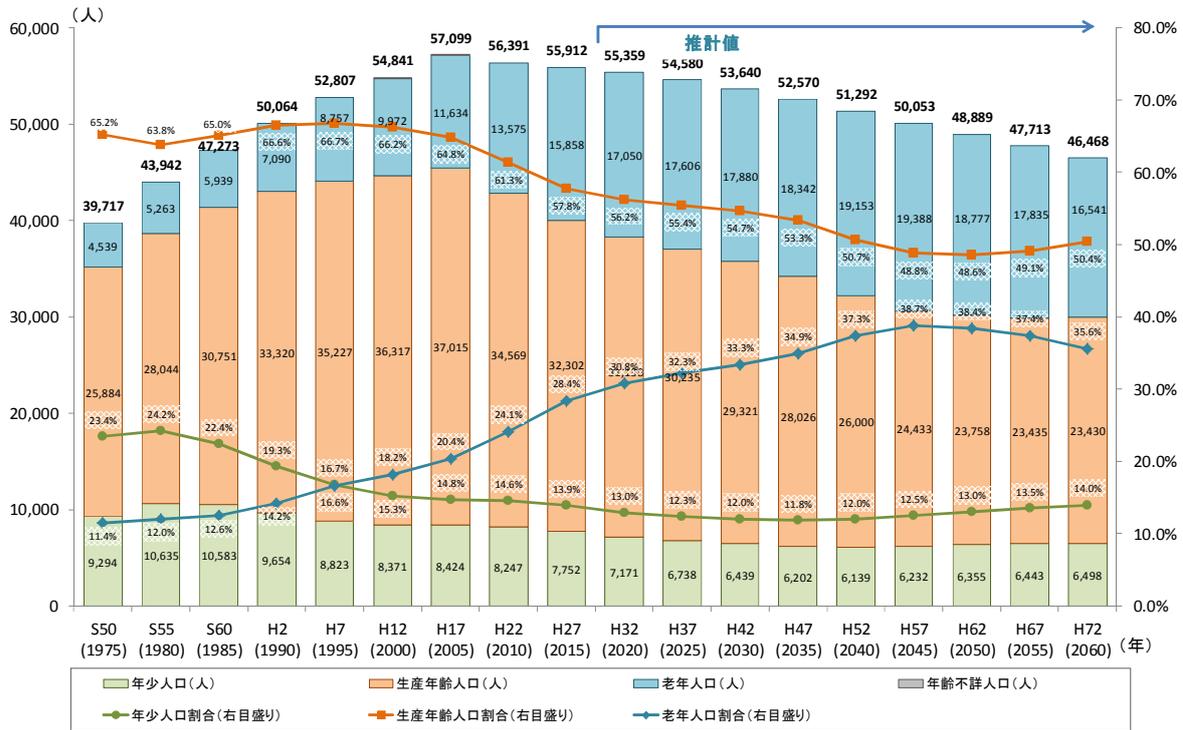
図表 7 茅野市地域創生総合略（平成 27 年）で掲げた将来人口展望

【茅野市人口ビジョン 将来人口展望】
平成 52(2040)年の茅野市人口:5 万人以上
平成 72(2060)年の茅野市人口:4 万 5 千人以上

イ. 老年人口の割合は高まるものと予想

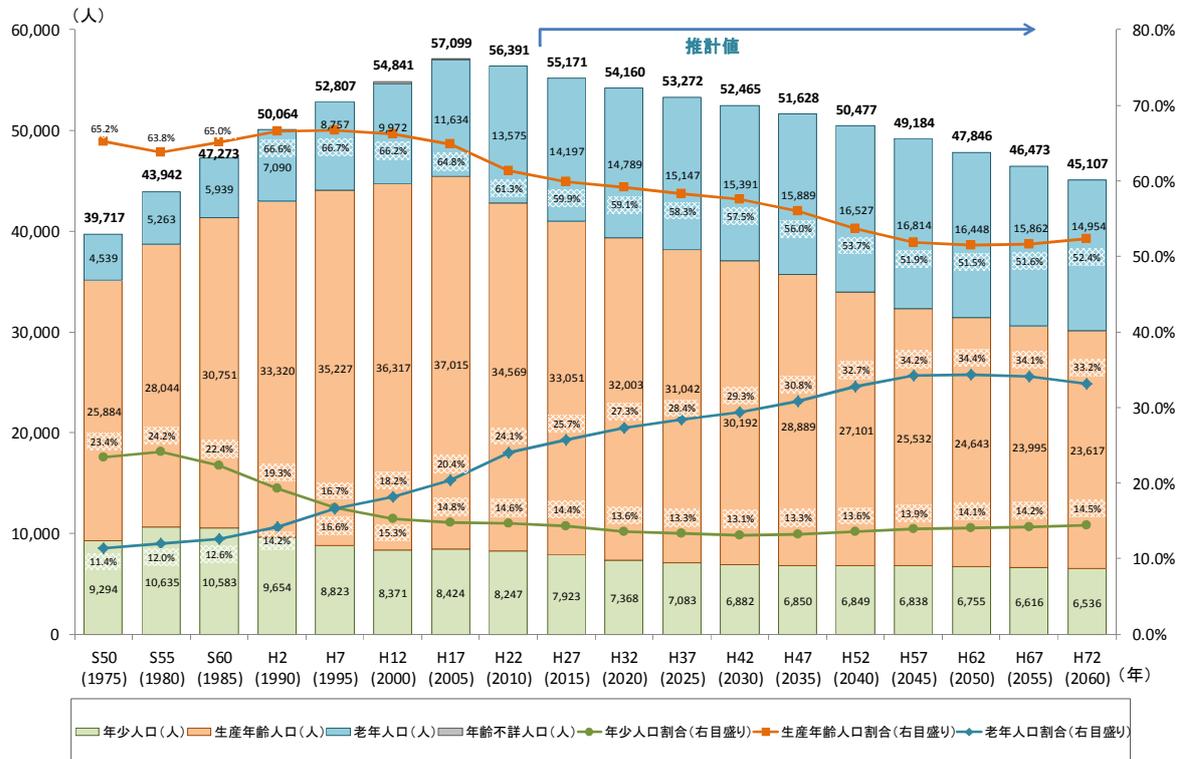
ただし、老年人口割合は前回推計を上回っています（図表 8 と図表 9 の老年人口割合の比較）。高齢化率の上昇に伴い、より少ない生産年齢人口で老年人口を支えていくことが予想されます。

図表 8 今回推計「②将来展望人口」



(注) H7(1995)～H27(2015)：総務省統計局「国勢調査」(※H12(2000)～H27(2015)は年齢不詳人口がある。このうちH22(2010)及びH27(2015)については、年齢不詳人口を年齢3区分にそれぞれ按分してある。)
H32(2020)～H72(2060)：茅野市にて推計

図表 9 前回推計「本市独自推計」

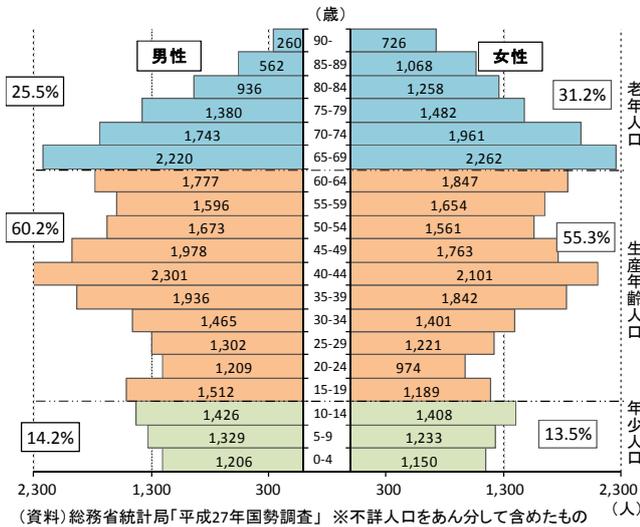


(注) H7(1995)～H22(2010)：総務省統計局「国勢調査」(※H12(2000)～H22(2010)は年齢不詳人口がある。このうちH22(2010)については、年齢不詳人口を年齢3区分にそれぞれ按分してある。)
H27(2015)～H72(2060)：茅野市にて推計

図表 10 人口ピラミッドによる比較

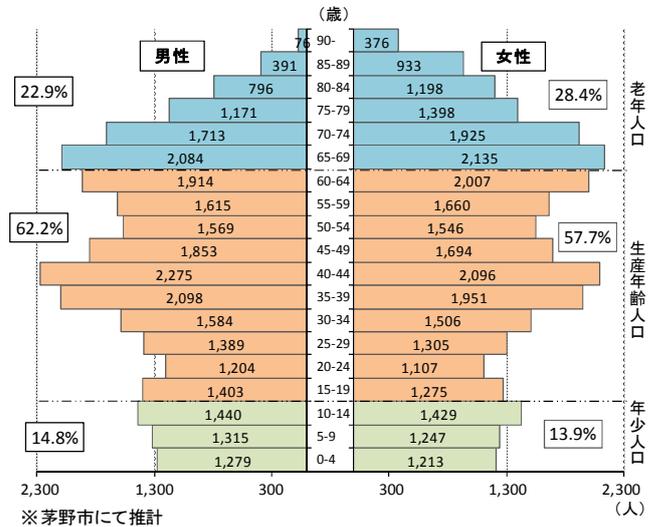
今回推計「②将来展望人口」

【平成 27(2015)年 実績値】

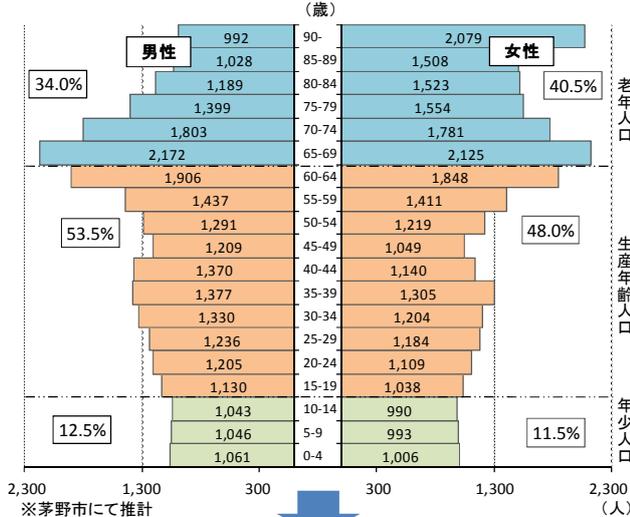


前回推計「本市独自推計」

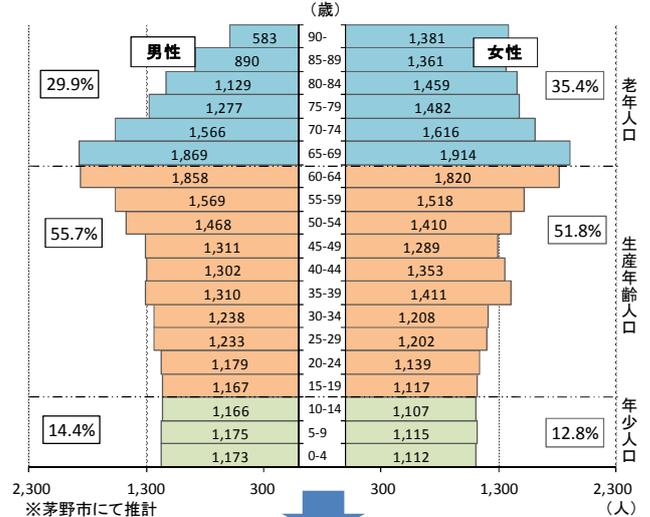
【平成 27(2015)年 推計値】



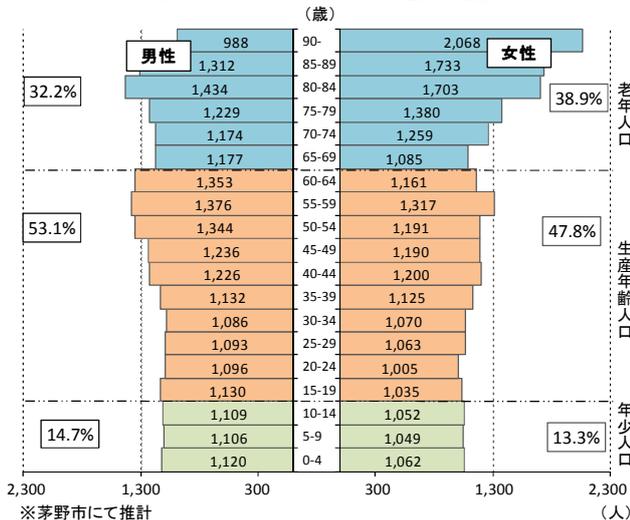
【平成 52(2040)年 推計値】



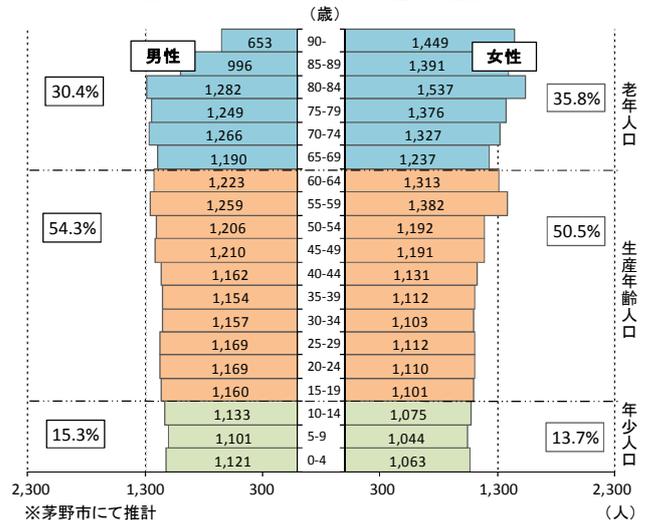
【平成 52(2040)年 推計値】



【平成 72(2060)年 推計値】



【平成 72(2060)年 推計値】



(3)「①現状推計人口」と「②将来展望人口」の比較(今回推計)

【ポイント】

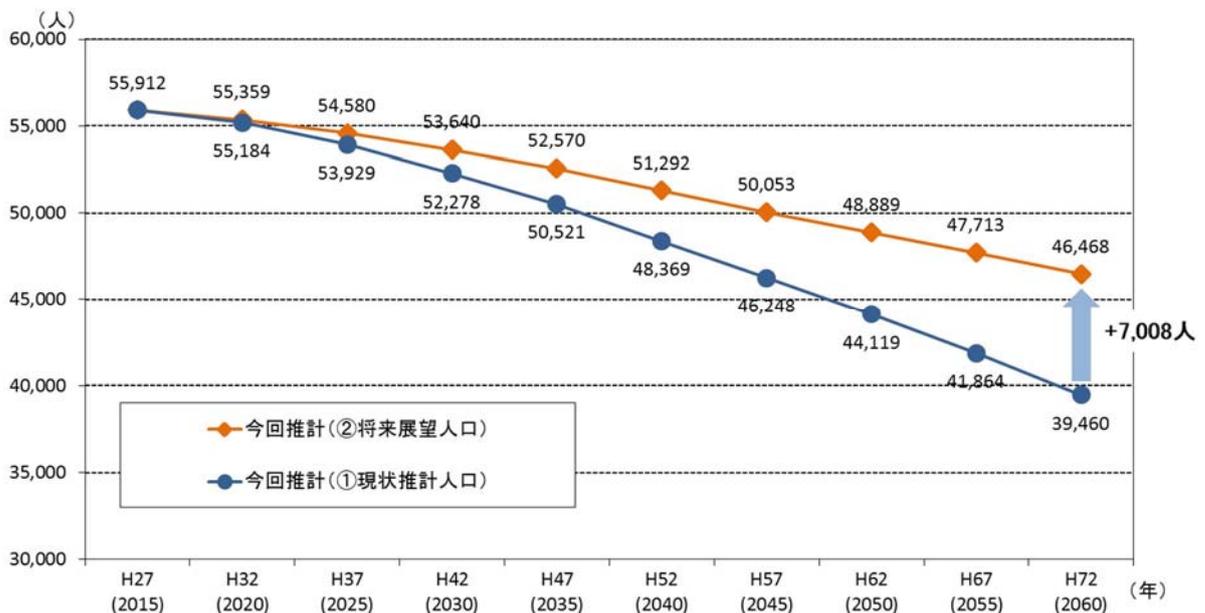
- 出生率の向上及び社会増を図ることで、「①現状推計人口」よりも人口減少の進行が緩和されるものと見込む。
- 「②将来展望人口」は、「①現状推計人口」よりも、平成 72(2060)年において総人口が約7千人多い、4万6千人程度を維持できると推測。
- 老年人口の割合は、高い水準で推移していくため、出生率の向上や若い世代の移住・定住、Uターン、公立化する諏訪東京理科大学学生の地元定着の促進といった取組が重要になる。

ア. 出生率の向上及び社会増を図ることで、「①現状推計人口」よりも人口減少進行の緩和を見込む。

前述の「②将来展望人口」の仮定条件に基づき、出生率を人口置換水準まで高めていくとともに、転入超過の傾向を堅持しまた転出を抑制していくことで、「①現状推計人口」よりも人口減少の進行が緩和されると見込まれます(図表 11)。

平成 72(2060)年における総人口を比べると、「②将来展望人口」は、「①現状推計人口」よりも、7千人程度多いものと推測されます。

図表 11 今回推計した 2 パターンの比較(茅野市総人口の推計)



イ. 生産年齢人口の増加に向けた取組がポイント

一方で、生産年齢人口は減少し、老年人口の割合は高い水準で推移すると推計されるため、茅野市地域創生総合戦略をより効果的・効率的に実施する必要があります。特に、子育て世代への支援といった出生率の向上や、若い世代の移住・定住、進学で市外に転出した子どものUターン、公立化する諏訪東京理科大学学生の地元定着といった取組が重要になります。

(4)平成 39(2027)年[第5次茅野市総合計画の最終年度]における将来展望人口の設定

ア. 第 5 次茅野市総合計画の目標年度及び前期計画終了年度における将来展望人口の設定

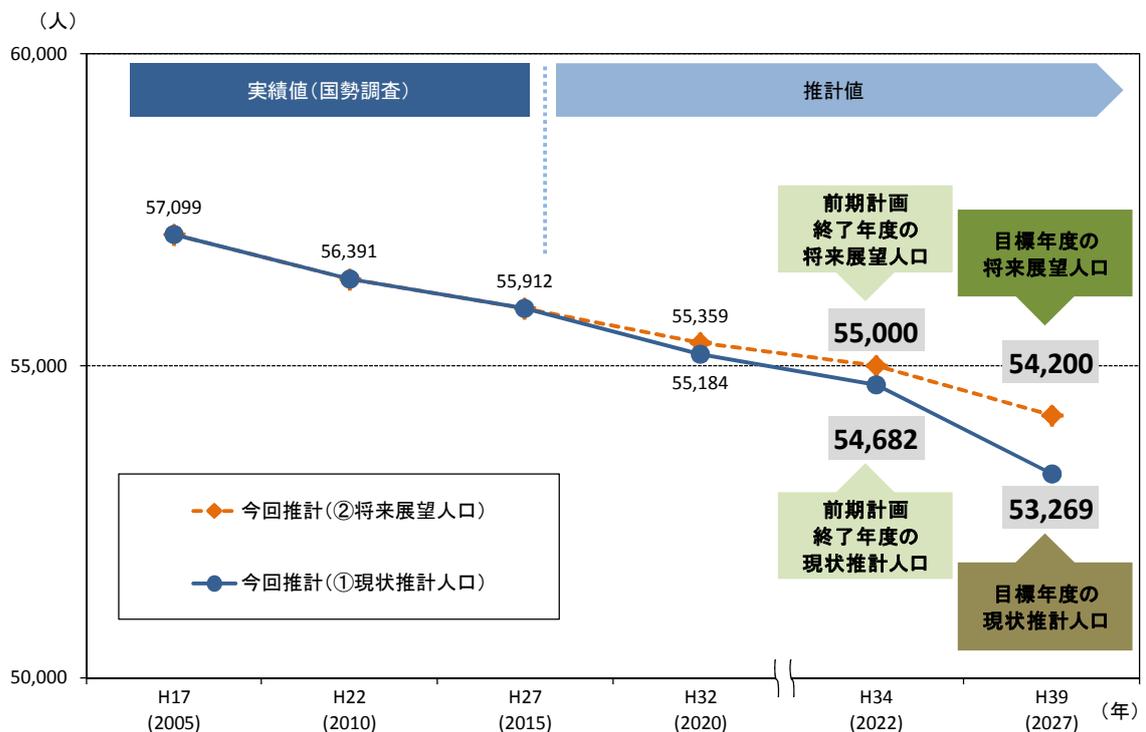
第 5 次茅野市総合計画は、平成 30（2018）年度を初年度とし、平成 39（2027）年度を目標年度とする長期 10 か年計画です。また、中間時点となる平成 34（2022）年度までの 5 か年を「前期計画」とします。

第 5 次茅野市総合計画の目標年度及び前期計画終了年度における茅野市の将来展望人口は、前述の人口推計結果をふまえ、以下のように設定します。

図表 12 第 5 次茅野市総合計画の前期計画終了年度及び目標年度の将来展望人口

	前期計画終了年度 (H34 (2022) 年度)	目標年度 (H39 (2027) 年度)
②将来展望人口	55,000 人	54,200 人
【参考】 ①現状推計人口	54,682 人	53,269 人

図表 13 第 5 次茅野市総合計画の目標年度及び前期計画終了年度の将来展望人口



(注1) H17(2005)～ H27(2015)：総務省統計局「国勢調査」

(注2) H32(2020)～H39(2027)：茅野市にて推計

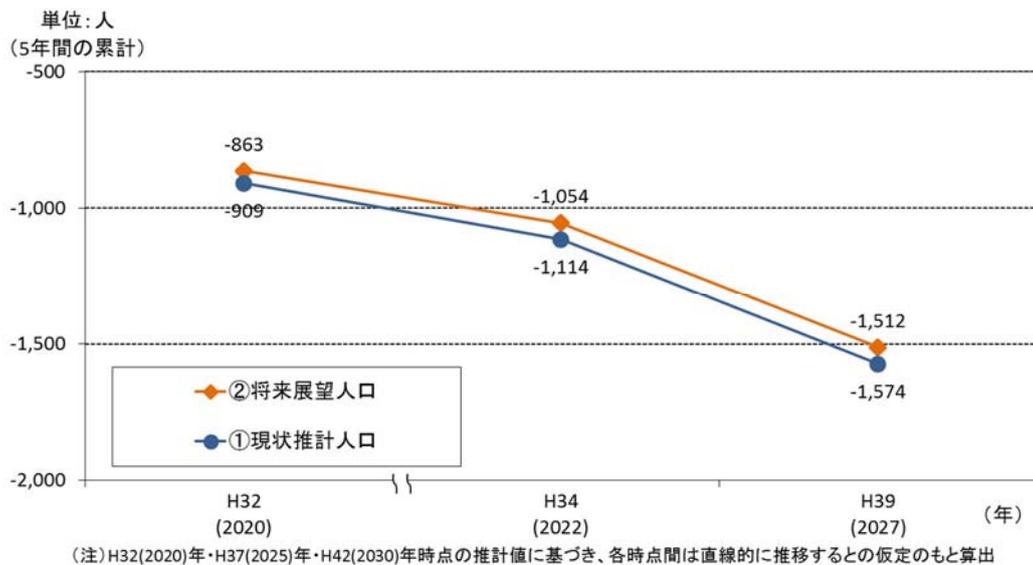
(注3) H34(2022)年及びH39(2027)年の人口は、H32(2020)年・H37(2025)年・H42(2030)年時点の推計値に基づき、各時点間は直線的に推移するとの仮定のもと設定している。

イ. 平成 27(2015)年以降の自然動態の比較

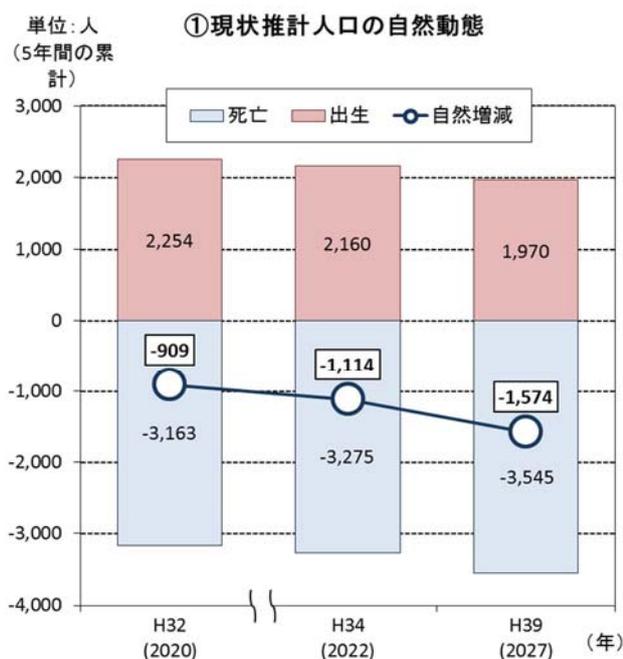
自然動態をみると、両パターンともに、目標年度である平成 39 (2027) 年にかけて減少数が拡大すると見込まれます。(図表 14)

出生数、死亡数の内訳でみると(図表 15)、②将来展望人口は、出生率を高め出生数の減少を緩和することで、①現状推計人口に比べて、自然減が抑制されるものと推測されます。

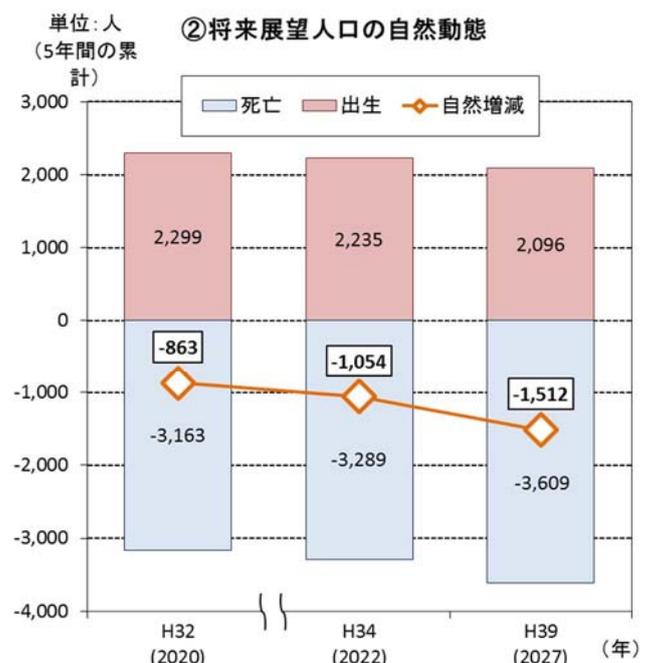
図表 14 自然動態の比較 (数値は 5 年間の累計)



図表 15 各パターンの出生数と死亡数 (数値は 5 年間の累計)



(注) H32(2020)年・H37(2025)年・H42(2030)年時点の推計値に基づき、各時点間は直線的に推移するとの仮定のもと算出



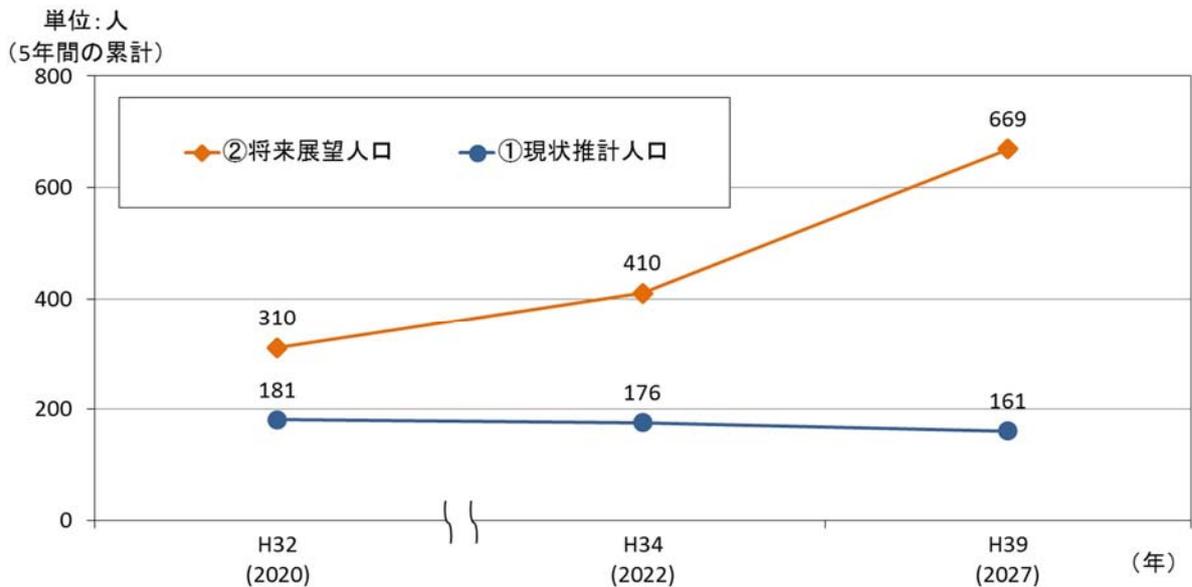
(注) H32(2020)年・H37(2025)年・H42(2030)年時点の推計値に基づき、各時点間は直線的に推移するとの仮定のもと算出

ウ. 平成 27(2015)年以降の社会動態の比較

社会動態をみると、両パターンともに、目標年度である平成 39 (2027) 年にかけて社会増で推移すると推測されます (図表 16)。

両パターンを比較すると、①現状推計人口では、社会増は緩やかに減少するのに対し、②将来展望人口は、「転入超過の傾向を堅持、かつ転出の抑制に取り組んでいく」とする仮定条件を用いていることから、増加幅は拡大すると予測されます。

図表 16 社会動態の比較 (数値は 5 年間の累計)

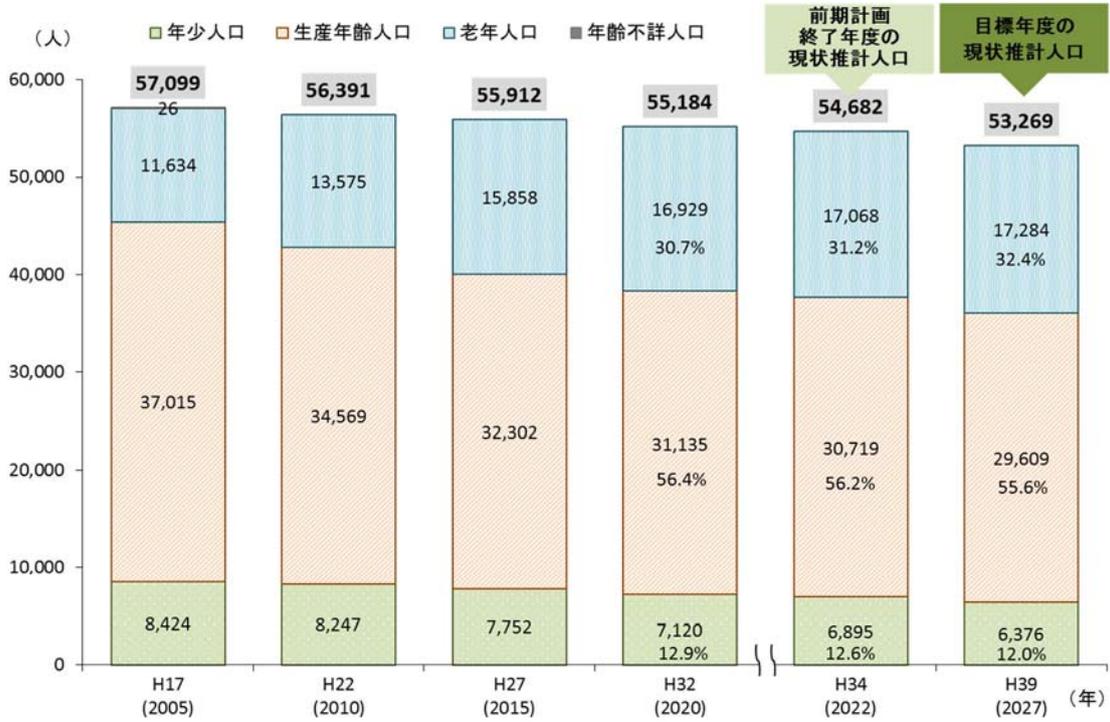


(注) H32(2020)年・H37(2025)年・H42(2030)年時点の推計値に基づき、各時点間は直線的に推移するとの仮定のもと算出

エ. 年齢 3 階級別にみた前期計画終了年度及び目標年度の人口の展望

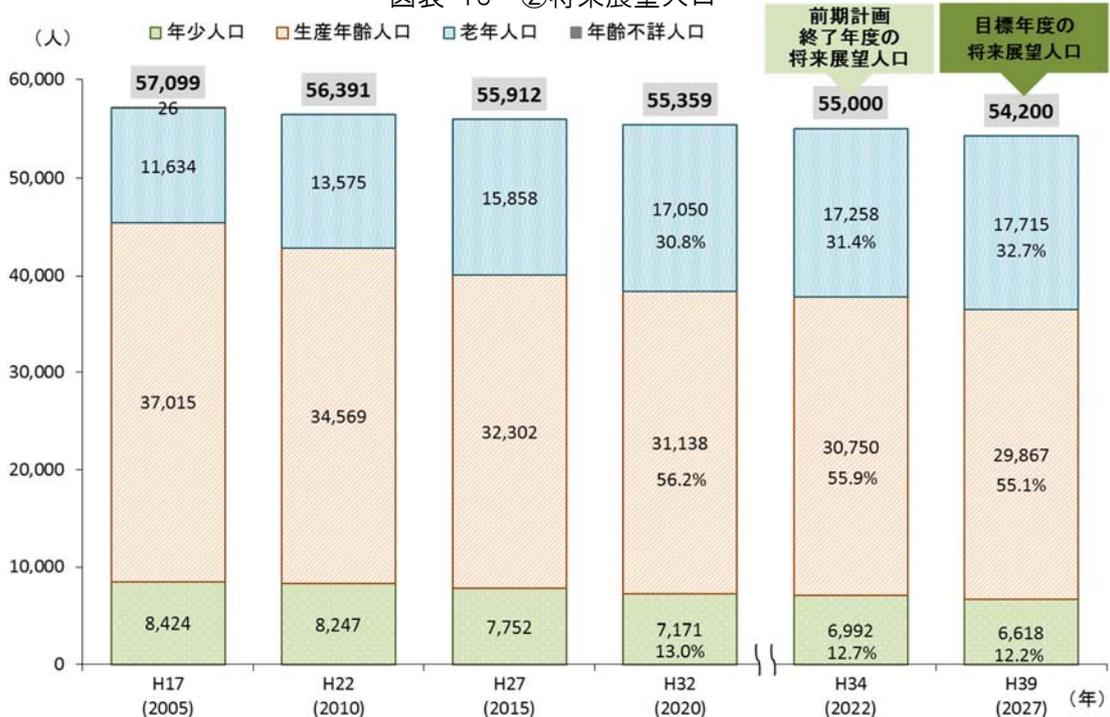
年齢 3 階級別にみた、前期計画終了年度[平成 34 (2022) 年度]及び目標年度[平成 39 (2027) 年度] の将来展望人口を、以下のとおり設定します。

図表 17 ①現状推計人口



(注1) H17(2005)～ H27(2015) : 総務省統計局「国勢調査」※H22(2010)及びH27(2015)は、年齢不詳人口を年齢3区分にそれぞれ按分
 (注2) H32(2020)～H39(2027) : 茅野市にて推計
 (注3) H34(2022)年及びH39(2027)年の人口は、H32(2020)年・H37(2025)年・H42(2030)年時点の推計値に基づき、各時点間は直線的に推移するとの仮定のもと設定している。

図表 18 ②将来展望人口

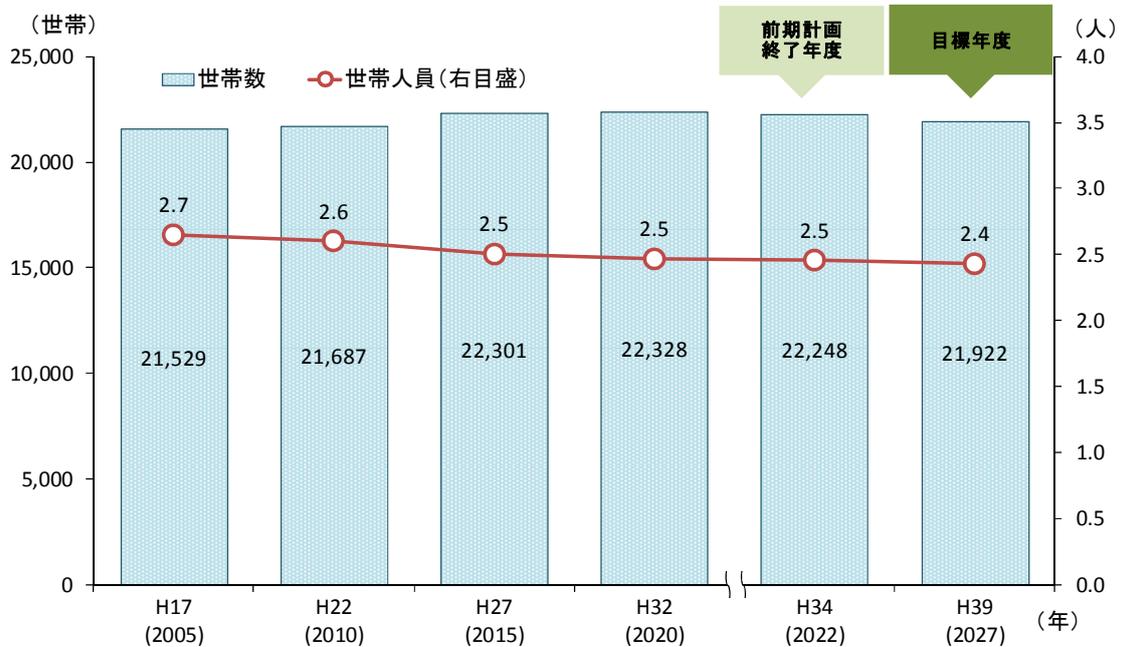


(注1) H17(2005)～ H27(2015) : 総務省統計局「国勢調査」※H22(2010)及びH27(2015)は、年齢不詳人口を年齢3区分にそれぞれ按分
 (注2) H32(2020)～H39(2027) : 茅野市にて推計
 (注3) H34(2022)年及びH39(2027)年の人口は、H32(2020)年・H37(2025)年・H42(2030)年時点の推計値に基づき、各時点間は直線的に推移するとの仮定のもと設定している

(5)世帯数・1世帯当たり人員の推移

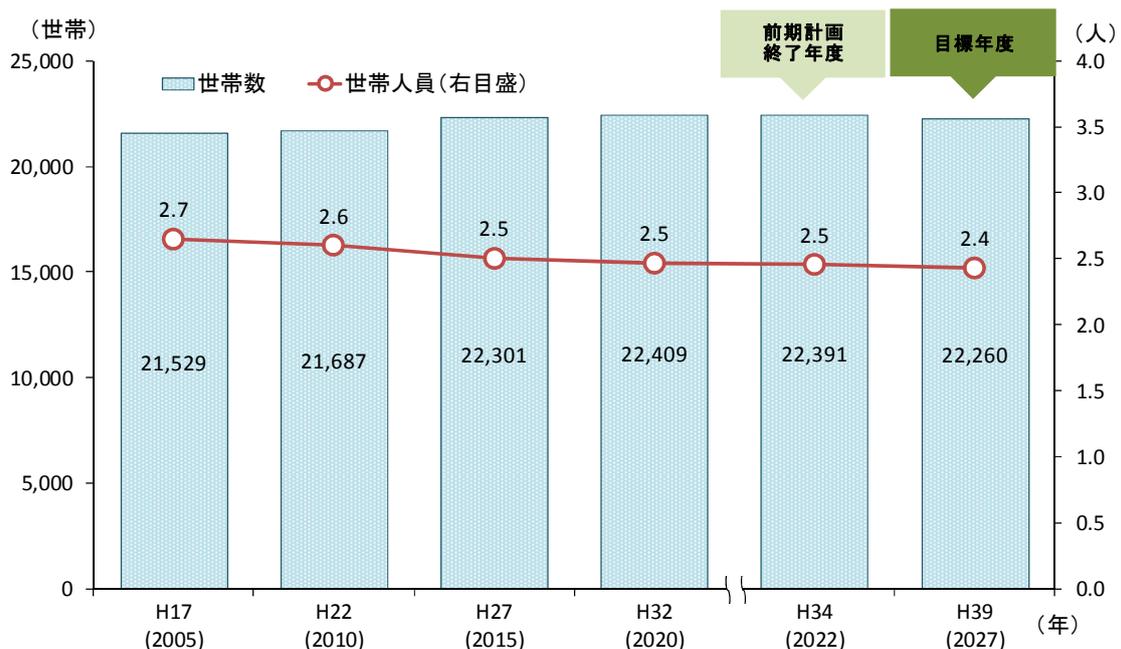
前述の人口フレームの推計結果に基づき、世帯数・1世帯当たり人員の推移を、以下のとおり設定します。いずれのパターンも、人口減少が進む中、世帯数は減少するものと設定します。また、1世帯当たりの人員も、緩やかに減少するものと設定します。

図表 19 世帯数・1世帯当たり人員の推移 (①現状推計人口)



(注1) H17(2005)～ H27(2015)：総務省統計局「国勢調査」
 (注2) H32(2020)～H39(2027)：茅野市にて推計
 (注3) 世帯人員は、総人口を世帯数で除して算出している

図表 20 世帯数・1世帯当たり人員の推移 (②将来展望人口)



(注1) H17(2005)～ H27(2015)：総務省統計局「国勢調査」
 (注2) H32(2020)～H39(2027)：茅野市にて推計
 (注3) 世帯人員は、総人口を世帯数で除して算出している